

新学術領域研究「集積反応化学」平成24年度第1回全体会議 報告



平成24年度第1回全体会議が平成24年6月30日～7月1日に京都大学桂キャンパス船井良哲記念講堂において開催された。一日目は、吉田潤一領域代表による開催挨拶に引き続き、A01班の班員により各研究の背景と計画が示された。5分間のショートトーク形式で行われた。引き続き行われた懇親会は山本先生、庄司先生の御挨拶のあと、大寺先生の乾杯の御発声により和やかに行われた。新しい公募班員も多数加わってこれまで以上に交流が広がり、共同研究などの目に見える成果にもつながると期待された。



吉田 領域代表



次世代を担う若手メンバー（齋藤、芝原（村井 代理）、三浦、熊谷、白川）



伊東田（日本化学会学術賞）



澤村（日本化学会学術賞）



田原（日本化学会進歩賞）



倉橋（日本化学会進歩賞）



羽村（文科大臣若手賞）

二日目は、A02班とA03班の班員により各研究の背景と計画が示された。両日を通して非常に密度が高く、充実した内容であり、班の垣根を越えた共同研究の可能性が模索された。梅雨時期のあいにくの天気ではあったが、班員と研究協力者が一堂に会し、領域研究の集大成となる2年間に向けて、反応集積化の概念が広く浸透しつつある状況が示された。

この後、昼食を経て、各班に分かれて約90分間の班会議を行った。班会議では、事務連絡の他、本領域における専門用語の統一等、研究遂行における方向性の確認を行った。「反応集積」ということの意義を再確認したことになった。また、重要な課題として各班の間での共同研究の進め方を討議し、積極的な情報交換を継続して行うこととした。

（文責 松原誠二郎）

第6回若手シンポジウム（東北地区）開催報告

日時：2012年7月14日（土）13:30～17:30

場所：東北大学 大学院薬学研究科 大講義室

プログラム

公開セミナー 13:30–15:00 「フローマイクロ合成の魅力」

吉田 潤一 領域代表（京都大学 工学研究科）

研究発表会 15:00–17:30 若手研究者6名による研究発表と討議（非公開形式）

発表者 有澤美枝子（薬学研究科 講師），藤野智子（理学研究科 助教）

岡野健太郎（薬学研究科 助教），佐々木要（多元研 助教）

増田裕一（薬学研究科 助教），吉田将人（薬学研究科 助教）

第6回若手シンポジウムを2012年7月14日（土）に東北大学薬学研究科において開催した。シンポジウムに先立ち、公開セミナーとして吉田領域代表が「フローマイクロ合成の魅力」というタイトルで講演を行った。講演では、従来のフラスコを用いたバッチ式と比較しながらフロー合成の利点について説明があり、フローリアクターを用いた実際の合成例を示しながら分かりやすくその有用性について解説が行われた。公開セミナーは青葉山キャンパスに位置する理学研究科および薬学研究科の教員と大学院生のみならず、片平および雨宮キャンパスからの参加者があり盛況であった。講演後の質疑応答では、特に若手研究者から積極的な質疑が行われていたことからフロー合成という新領域の魅力が十分伝わっていることが感じられた。



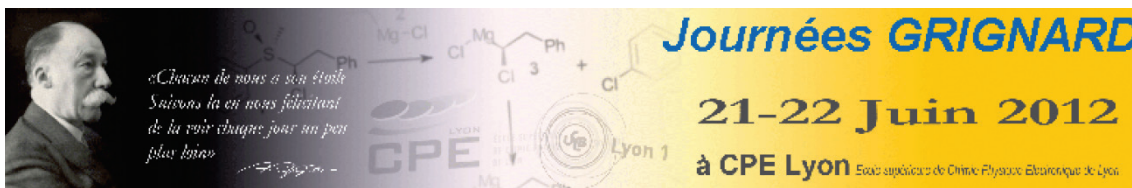
公開セミナー後には、若手研究者による研究発表会が非公開で行われた。この発表会では、自分の研究背景を基に実際にどのような場面でフローリアクターが利用できるのかを提示し、吉田領域代表との討議を行う形式で進化した。天然物合成や遷移金属反応など若手研究



者から提供される話題は多岐に渡り、一人当たりの発表時間は15–20分と限られたものであったが、持ち時間を超えて議論されるほど活発な討議が行われ、若手研究者にとってフロー合成に関する有用な知見を得る良い機会になった。その後の懇親会では、吉田領域代表と若手研究者との積極的な交流が図られ、大変有意義な若手シンポジウムとなった。

（文責 土井隆行）

国際シンポジウム 参加報告



2012年6月21日～22日にフランスのリヨンでグリニヤールのノーベル賞受賞100周年記念シンポジウムが開催された。Prof. Jean-Marie Lehn (France)、Prof. Paul Knochel (Germany)、Prof. William R. Roush (U.S.A.)、Prof. Victor Snieckus (Canada)らとともに領域代表の吉田潤一教授が招待講演 (“Hot” reagents in High-tech Reactors) を行った。シンポジウムには、グリニヤールの子孫の方々も招かれ盛大に行われた。



(文責 吉田潤一)

今後の会議開催予定

平成24年度第1回成果報告会 平成24年11月11日(日)～12日(月) 大阪大学にて
班員による成果報告を予定